

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査（研究科）
（平成29年9月～11月実施）
回答データ分析レポート

回答内容を因子分析した結果、「3つの能力」を抽出し、その特徴を軸として「5つのグループ」に分けました。
* 詳細は裏面〔「回答データ分析レポート」の見方〕参照

3つの能力		
①論理的思考性	②協調性	③独創性

回答結果から導き出された「5つのグループ」		I 貴研究科の分析結果
※入学時点と卒業時点の能力の値の増加を「能力の伸び」としています。		
Group1	全体の回答傾向と比較した場合に、 ①論理的思考性の伸びに課題があると考えられる研究科の多いグループ	
Group2	全体の回答傾向と比較した場合に、①論理的思考性が伸びていると評価できる研究科の多いグループ	
Group3	全体の回答傾向と比較した場合に、 ①論理的思考性、②協調性が伸びていると評価できる研究科の多いグループ	
Group4	全体の回答傾向と比較した場合に、③独創性が伸びていると評価できる研究科の多いグループ	
Group5	全体の回答傾向と比較した場合に、 ①論理的思考性、②協調性、③独創性がいずれも伸びていると評価できる研究科の多いグループ	

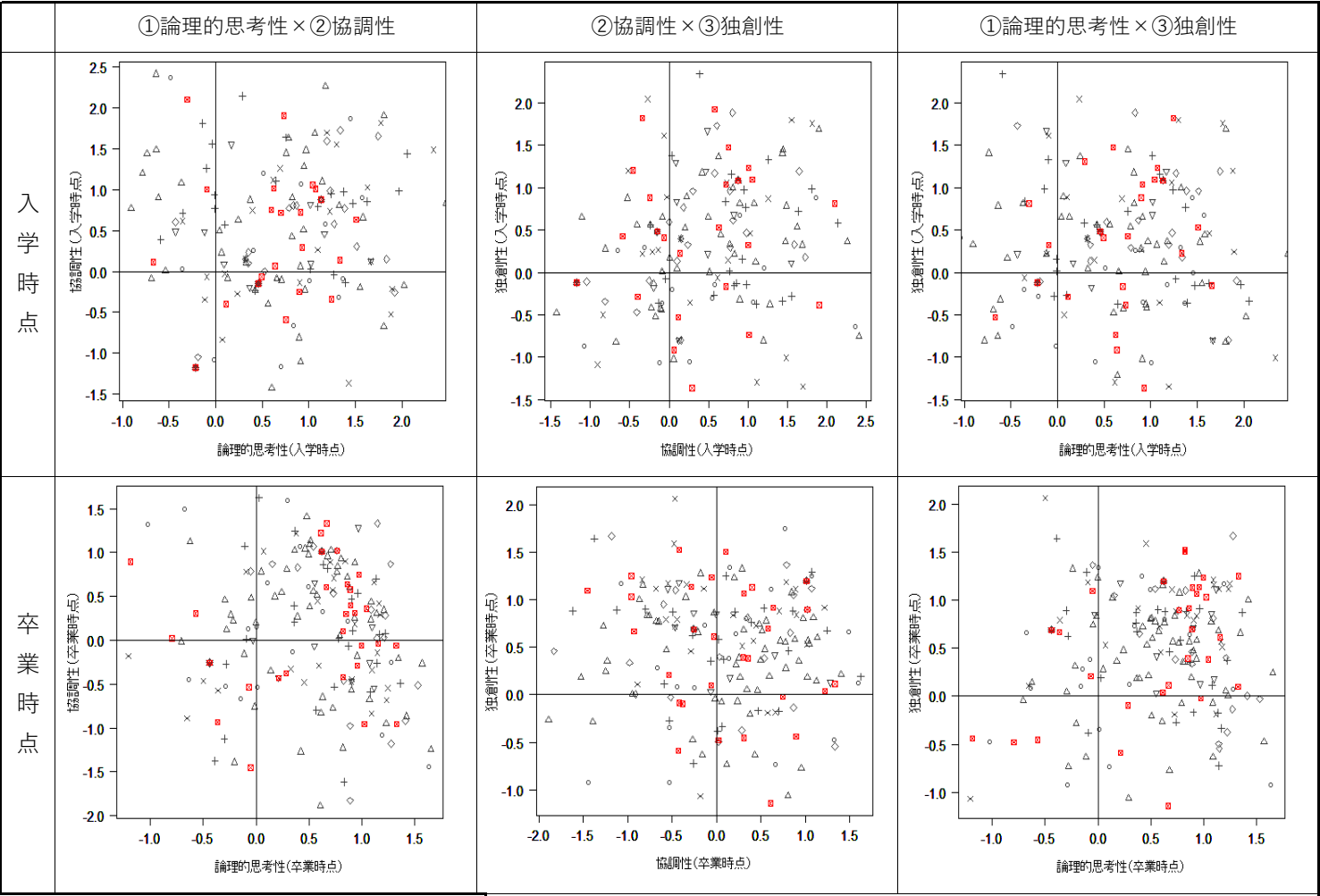
II 入学時点・卒業時点での能力到達度（貴研究科の回答）※1)
* 卒業時点の到達目標を「5」として、相対的な到達度を評価した結果

能力	項 目 * 数字は、調査票の項目番号	貴研究科の回答		能力	項 目 * 数字は、調査票の項目番号	貴研究科の回答	
		入学時点	卒業時点			入学時点	卒業時点
①論理的思考性	1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる			②協調性	2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる		
	12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる				3. 自分のものと違う意見であっても受容できる		
	16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる				4. グループの中での自分の役割を果たせる		
	17. 根拠に基づいた判断ができる				5. 異なる立場の相手とも協力できる		
	18. 物事を筋道立てて考えることができる				6. いろいろなことに興味を持てる		
	19. 問題の本質を的確に把握できる				7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる		
	20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる				8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる		
	21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる				9. 自分の考えで行動できる		
	22. 自分の知識を問題解決に使える				10. 何事にも積極的に取り組める		
	23. 問題解決の方法を自ら考えることができる						
	24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる						
	26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる						

貴研究科名	
-------	--

III 散布図

* 貴研究科は、下の散布図の■の位置にプロットされています。



※1) 能力の抽出に使用した質問項目です。
各質問項目について、回答内容から抽出した
[3つの能力]ごとに記載しています。

【散布図の見方】

この散布図は、回答の分析結果から抽出した能力をそれぞれの軸におき、入学時点・卒業時点それぞれの平均値を「0」として、全研究科の位置を示したものです。
散布図中の(■)は貴研究科を表し、目安として同じ区分の研究科を色付けして示しています。
平均値を基準としているため、下欄 [貴研究科の回答]において高く評価していても、散布図上での位置が低く示されている場合があります。

* 裏面〔<参考1>【散布図の凡例】について〕参照

【散布図の凡例】

■ KG1

◇ KG2

— KG3

○ SG4

☆ PG

▽ SG1

× SG2

△ SG3

能力	項 目 * 数字は、調査票の項目番号	貴研究科の回答	
		入学時点	卒業時点
③独創性	13. 人と違うことを考えることが好きである		
	14. 既存例から独自性を見出そうとする		
	15. 独創的なアイデアを生み出そうとする		
	25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる		

1544787

一般財団法人
日本生涯学習総合研究所
Japan Institute of Lifelong Learning

IV 実際に導入している教育施策

i 各能力の伸びに効果があると考えられる教育施策 ※2)

※2) 下の「ii 各グループの能力の伸びに効果があると考えられる教育施策」と、

裏面「(II) 入学時点・卒業時点での能力到達度」との関連について分析した結果になります。

①論理的思考性の伸びに有効と考えられる教育施策	* 数字は、調査票の項目番号
5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業	
9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業	
10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業	
11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業	
12. データに基づいて思考する態度を育成する授業	

②協調性の伸びに有効と考えられる教育施策	* 数字は、調査票の項目番号
9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業	
10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業	
11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業	
18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	
24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備	

③独創性の伸びに有効と考えられる教育施策	* 数字は、調査票の項目番号
16. 創造性を育む授業	
19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	
20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	
21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	
23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	

ii 各グループの能力の伸びに効果があると考えられる教育施策／貴研究科の回答

項 目		貴研究科の回答	Group1	Group2	Group3	Group4	Group5
授業・演習	1. 情報の検索方法を学ぶ授業						
	2. レポートの書き方を学ぶ授業						
	3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業						
	4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業						■
	5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業					▲	●
	6. 現実のデータを学生自身が分析する授業						■
	7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業						
	8. 教室外学習（調査，体験学習等）を取り入れた授業		■	▲	▲		
	9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業		●▲		▲		●
	10. 各メンバーが異なる専門性を分担し，グループで問題解決する授業		▲	▲	▲		●▲
	11. 役割分担をせずに，グループで問題解決する授業			▲			●▲
	12. データに基づいて思考する態度を育成する授業		●▲		●	■	▲■
	13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業				●		
	14. 論理的思考について学ぶ授業			●			
	15. 批判的思考について学ぶ授業		●▲■		●		
	16. 創造性を育む授業			■	●▲■		
組織的な 取り組み	17. 卒業研究，卒業制作，卒業論文，ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み			●			■
	18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）		▲	▲		▲	●
	19.チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）		●		■	▲■	
	20.学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）						■
組織的な 支援	21.学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）			■		■	
	22.学生の課外活動(留学,ボランティア活動,インターンシップ等)に対する支援 （大学全体での取り組みを含む）			▲			
	23.学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）						
環境整備	24.学生が利用できるラーニングコモンズを整備		●			▲	▲
	25.学生が e ラーニングで自発的に学習できる環境を整備					▲	

調査内容

社会の中で生き抜く対応力や物事への取り組みの姿勢，学力観の変化により重要視されるようになった「知識・技能を習得し,それらを活用して，自ら考え，判断し，表現する力や，主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する調査

質問内容

* 調査票は，弊財団ホームページ上に掲載 <http://www.shogai-soken.or.jp/research.html>

調査票の質問番号		質問内容
学部・修士	博士	
質問 1	質問 5	授業実施状況について
質問 2	質問 6	育成重要度の順位について
質問 3	質問 7	教育施策の導入状況について
質問 4	質問 8	入学時点・卒業時点での能力到達度について * 卒業時の到達目標を「5」として，相対的な到達度を評価

「回答データ分析レポート」について

調査には，502 学部，461 研究科からご協力をいただき，そのうち，407 学部，347 研究科（修士・専門職課程 323 研究科，博士課程 228 研究科）よりフィードバック・レポートのご希望をいただきました。合計 958 の回答内容から特徴を抽出し，その結果をもとに 5 つのグループに分けた結果を記載しています。

「3 つの能力」の抽出と「5 つのグループ」分けの手順

958 の回答内容を因子分析した結果，3 つの能力（①論理的思考性，②協調性，③独創性）を抽出し，その特徴を軸として階層クラスタ分析（回答結果が類似している組み合わせのものをまとまりにする）を行い，5 つのグループ（Group1～Group5）に分けました。

* 能力の抽出に使用した質問項目 *

上記， **質問内容** 質問 4・質問 8「入学時点・卒業時点での能力到達度について」に対応

「回答データ分析レポート」の見方

I 貴学部/研究科の分析結果：該当グループ

II 入学時点・卒業時点での能力到達度（貴学部/研究科の回答） * 能力の抽出に使用した質問項目

III 散布図 * 上記， **質問内容** 質問 4・質問 8「入学時点・卒業時点での能力到達度について」に対応
<参考 1> 【散布図の凡例】について
河合塾「2017 年度入試難易予想一覧表」（2018 年 1 月 18 日現在）の大学ランキングをもとに，国公立大学を【K1】【K2】【K3】の 3 つに区分，私立大学を【S1】【S2】【S3】【S4】の 4 つに区分しています。
大学院については，大学の区分を適用し，国公立大学院を【KG1】【KG2】【KG3】，私立大学院を【SG1】【SG2】【SG3】【SG4】とし，専門職大学院については【PG】と区分しています。
なお，医学については単独で区分し，それ以外の学問系統については大学平均で区分しています。

IV 実際に導入している教育施策 * 上記， **質問内容** 質問 3・質問 7 に対応
i 各能力の伸びに効果があると考えられる教育施策
ii 各グループの能力の伸びに効果があると考えられる教育施策／貴学部/研究科の回答

<参考 2> データクリーニングについて

無効値（選択数指定数超え，選択箇所不明），および明らかな記載ミスと判断できる回答について，弊財団にて無効扱い・修正している場合があります。

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査の報告書を、弊財団ホームページ上に掲載しておりますので、ぜひ併せてご参照ください。 <http://www.shogai-soken.or.jp/research.html>